

エコアクション21

環境活動レポート 2017

TECHNICAL **LINKS DESIGN**

株式会社テクニカルリンクスデザイン

レポート対象期間 : 2017年 4月1日～ 2018年 3月31日
レポート発行日 : 2018年 7月9日

◆目次

- 1、 表紙
- 2、 目次
- 3、 会社概要、活動規模
- 4、 実施体制、認証・登録範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 5、 基本理念、環境方針
- 6、 環境目標
- 7、 環境活動の取組内容
- 8、 環境活動報告
- 9、 環境目標の実績
- 10、 環境活動計画の取組結果とその評価
- 11、 環境活動の次年度の取組内容
- 12、 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
- 13、 代表者による全体評価と見直しの結果

◆会社概要

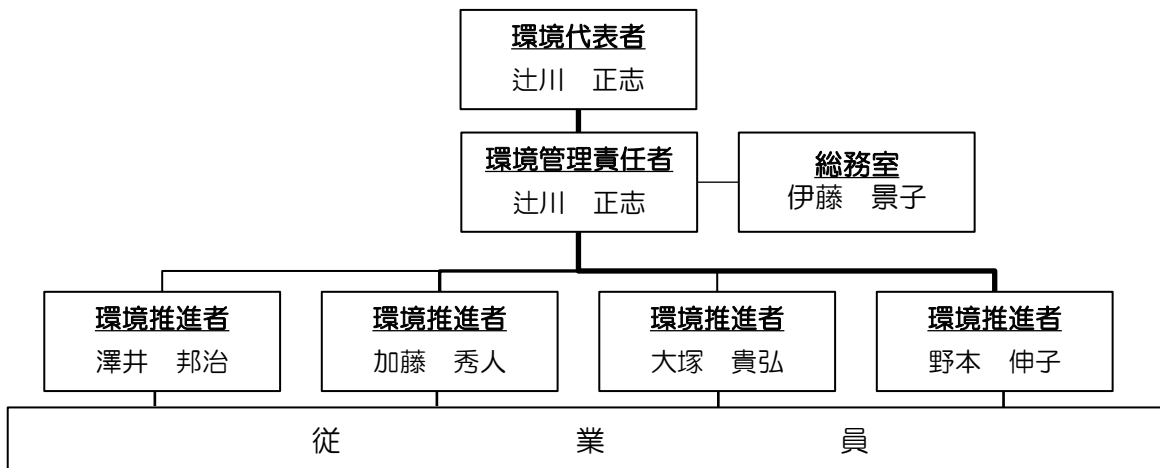
事業所名	株式会社テクニカルリンクスデザイン		
事業の活動内容	自動車用品のプロダクトデザイン・ビジュアルデザインなどの企画		
創立	1997年10月22日		
資本金	1500万円		
代表者名	代表取締役社長	辻川 正志 tsujikawa@links-d.com	
所在地	〒470-0128	StudioB(本社機能) 日進市浅田平子1丁目225番地 StudioC 日進市浅田平子1丁目206番地	
連絡先	TEL	052-808-0041	
	FAX	052-808-0241	
事務局	総務室	伊藤 景子	野本 伸子 ito@links-d.co.jp nomoto@links-d.co.jp
連絡先	TEL	052-808-0041	
	FAX	052-808-0241	

◆活動規模

事業年度	年度	4月 ~ 3月 期間		
期間	直近3期	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	百万円	793	638	648
総人員	人	28	25	24
床面積	m ²	901	901	901

(総人員：契約社員含む)

◆実施体制



事務局	・代表者 辻川 正志	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の策定、各種目標・計画の承認 環境管理責任者の任命 資金の準備（人・設備・費用） 各種文書類の承認 環境活動レポートの承認 全体の評価と見直し
	・環境管理責任者 辻川 正志	<ul style="list-style-type: none"> EA21システムを構築・運用・維持し管理すること その状況及び結果を代表者へ報告すること 環境への負荷の自己チェック 環境への取組の自己チェック 環境活動の目標及び計画の策定、管理 関連法規等の遵守状況管理 教育、訓練計画の策定 環境活動関連の記録の保管 環境活動レポートの作成
	・環境推進者 澤井 邦治 加藤 秀人 大塚 貴弘 野本 伸子	<ul style="list-style-type: none"> 教育、訓練の実施 環境活動のグループ取りまとめ 日常的な環境活動の推進と徹底

◆認証・登録範囲、レポートの対象期間及び発行日

取組の対象組織	studioB(本社機能),studioC
対象組織の活動内容	自動車用品のプロダクトデザイン・ビジュアルデザインなどの企画
レポート対象期間	2017年4月1日 ~ 2018年3月31日
レポート発行日	2018年7月9日

◆基本理念

当社は、デザイン事業の活動を通じ社会に役立つ製品開発を幅広く行う。
その活動において、環境に影響する業務があることを認識し、
環境経営システムを構築・運用・改善・継続することにより
地球環境に優しい企業経営を自主的積極的に推進します。

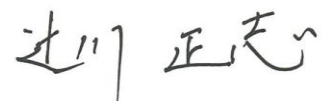
◆環境方針

1. 当社に、適用される法規制、当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
2. 環境経営システムを運用するにあたり、具体的に下記の実施事項を展開します。
 - ①省エネルギーに取組CO2排出量を削減する
 - ②事業活動で発生する廃棄物排出量の削減・リサイクルを推進する
 - ③節水につとめ水使用量を削減する
 - ④化学物質使用量を削減する
 - ⑤グリーン購入を促進する
 - ⑥生産活動において効率化を促進する
 - ⑦デザインの事業活動を通じ、環境にやさしい製品を提案する
 - ⑧環境意識の高い社員を育成する
3. 本方針は全社員に周知するとともに一般に公開し、
環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日	2009年10月1日
改定日	2012年 7月1日
継続確認日	2016年 7月8日
継続確認日	2017年 7月3日
継続確認日	2018年 7月3日

株式会社テクニカルリンクデザイン

代表取締役社長



◆環境目標

2017年度 環境目標

		基準値		目標		目標		目標	
		2013年度		2017年		2018年		2019年	
		2013/4月~3月		2017/4月~2018/3月		2018/4月~2019/3月		2019/4月~2020/3月	
売上高(百万円)		678							
①CO2 総排出量削減		使用量	原単位	増減目標	原単位	増減目標	原単位	増減目標	原単位
電気使用量	電気使用量(kwh)	162,902	240	-8%	221	-10%	216	-12%	211
LPガス	ガス使用量(kg) ※1.	22.7	-	現状維持	-	現状維持	-	現状維持	-
ガソリン	ガソリン使用量(ℓ)	4,818	7.1	-8%	6.5	-10%	6.4	-12%	6.3
CO2	総排出量(kg-CO2) ※2.	85,375	126	-8%	116	-10%	113	-12%	111
②廃棄物削減	排出量(kg)	42,786	63	-8%	58	-10%	57	-12%	55
③水使用量削減	水使用量(m3)	294.5	0.43	-8%	0.40	-10%	0.39	-12%	0.38
④化学物質使用量削減	有機溶剤使用量(mℓ)	90,984	134	-8%	123	-10%	121	-12%	118
⑤グリーン購入促進	グリーン購入品目の比率 ※3	39.5%		8%増		10%増		12%増	
⑥生産活動における効率化	改善提案件数 ※4	2件		2件		2件		2件	
⑦環境にやさしい製品の提案	提案件数	2件		2件		2件		2件	
⑧社員の育成	社会貢献活動	2回		2回		2回		2回	

※1.LPガス換算係数・・・消費量m³を「1 m³=2.07kg」として換算している

※2.CO2換算係数・・・平成20年中部電力公表値 0.455 kg-CO2/kwh

※3.グリーン購入促進・・・目標基準をグリーン購入商品の購入点数から全購入品に対してのグリーン購入商品の比率に変更した

※4.生産活動における効率化・・・17年度より評価指標の変更 「在庫管理回数」から、より改善効率化の成果が見える「改善提案件数」へ変更

◆環境活動の取組内容

【17年度 環境活動計画】	■：重点項目
①CO2排出量削減 【電気使用量】	■作業場の統合による電気使用量の削減 ■節電タイマーの利用による、換気扇の切り忘れ防止 <ul style="list-style-type: none"> ・「施設・節電チェックリスト」の運用管理 ・昼休みの各室の最終退席者は消灯を確認する ・共有部分の最終使用者は消灯を確認する ・照明エリア図の掲示の継続 ・各個人のPCの退社時、電源OFFの表示継続 ・エアコンの設定温度の目安を啓発表示の継続 ・エアコン温度設定操作部の付近に空調管理用温度計の設置の継続 ・省エネ家電の導入（家電の買い替え時） ・室内機フィルターの定期的清掃実施（年2回/6月12月）
【LPガス】	<ul style="list-style-type: none"> ・温水利用の削減 ・給湯器付近に節約の表示
【ガソリン】	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費計測によるエコドライブ推進活動 ・業務の前段取りを行い引取り、納入回数を低減する ・仕入先に対し当社への納入を依頼
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物で捨てていたものの中からリサイクルできるゴミを分別する ・発泡スチロールの廃材を納品業者に回収してもらい、リサイクルする ・廃棄する梱包材を削減し、できる限り再利用するようにする ・詰め替え可能な製品の利用を促進する ・使用済み用紙の裏紙、使用済み封筒を再利用する ・廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を確認する ・支給部品の返却を徹底する
③水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水タンクの移設（花壇の水やりや災害時用などの有効活用） ・「水を大切に！」のメッセージを全ての水周りに掲示する
④化学物質の使用量削減	■「安全衛生推進者」資格の取得 1名/年 <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>作業環境測定</u>」の実施 ・<u>危険物貯蔵の見える化ボード</u>の設置 ・化学物質の有機溶剤の成分・量・対応する法令を把握する ・化学物質使用量を削減するため、在庫管理を行う。 ・相手先から支給の塗料は、全て返却する
⑤「グリーン購入」の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入品目の利用を促進する
⑥生産活動における効率化	■作業効率化についての改善提案の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>CADデータ作業の効率化（定型業務のデータフォーマット化）</u> ・作業者が材取り、歩留まりを計画し材料を低減できるように意識する。 ・材料の低減のため、1ヶ月に1度の在庫管理を行う。
⑦環境にやさしい製品の提案	■環境にやさしい製品の業務へ積極的に参加する 目標：2件/年 <ul style="list-style-type: none"> ・NC材料の変更（ケミウッド→発泡スチロール）による軽量化 ・軽量化、材料置換のアイデアを提案する
⑧環境意識の高い社員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ、ヘルマーク、使用済トナーの回収活動 ・公園愛護会活動 ・環境ボランティア活動への参加促進 ・地域清掃の自主活動を実施

◆環境活動報告

■節電タイマー利用による節電対策



■危険物貯蔵の見える化ボードの設置

少量危険物保管内容			
	品名	量し 倍率	
第1号油類	ロックラッカーシナー	20L	0.14
	ロックプライマー	10L	
	ロック塗料乾燥剤	5L	
	ボリアロビロンプライマー SP-700	5L	
	ルーフメント 接着用溶剤	5L	
第4類	コーラン ホワイトガソリン	20L	0.14
原液	5L		
第2号石油類	ロック ハイロックワレンタンナー	20L	0.025
	ロック ワレンタンナー	10L	
	ロック ワレンクリアー	10L	
	日ペ ワレンシパドナー	10L	
	日ペ フラットペニス	10L	
	日ペ ワレンソフナー	10L	0.163

■ロビースライド活用により遮光断熱対策



■公園愛護会活動 12回/年



■事業所周辺の環境美化活動（1回/年）



■エコキャップ回収活動（2箱/年）



■使用済み切手・トナー 回収



◆環境目標の実績

2017年度 環境目標の実績		基準値 (2013年度)		実績 (2017年度)		目標値	結果	評価
	売上高(百万円)	678		648		原単位比較	原単位増減割合	【評価基準】 目標達成：○ 目標未達：×
①CO2総排出量削減		使用量	原単位	使用量	原単位			
電気使用量	電気使用量(kwh)	162,902	240	117,670	182	-8%	-24%	○
LPガス	ガス使用量(kg) ※1	22.7	-	15.7	-	現状維持	-31%	○
ガソリン	ガソリン使用量(ℓ)	4,818	7.1	3,540	5.5	-8%	-23%	○
CO2	総排出量(kg-CO2) ※2	85,375	126	61,806	95	-8%	-24%	○
②廃棄物削減	排出量(kg)	42,786	63	29,766	46	-8%	-27%	○
③水使用量削減	水使用量(m3)	294.5	0.43	228.0	0.35	-8%	-19%	○
④化学物質使用量削減	有機溶剤使用量(mℓ)	90,984	134	71,085	110	-8%	-18%	○
⑤グリーン購入促進	グリーン購入品目の比率 ※3	39.5%		29.0%		8%増	0.6%増	×
⑥生産活動における効率化	改善提案件数 ※4	2件		3件		2件	150%	○
⑦環境にやさしい製品の提案	提案件数	2件		2件		2件	100%	○
⑧社員の育成	社会貢献活動	2回		12回		2回	10回増	○

※1.LPガス換算係数・・消費量m³を「1 m³=2.07kg」として換算している

※2.CO2換算係数・・平成20年中部電力公表値 0.455 kg-CO2/kwh

※3.グリーン購入促進・・目標基準をグリーン購入商品の購入点数から全購入品に対してのグリーン購入商品の比率に変更した

※4.生産活動における効率化・・17年度より評価指標の変更 「在庫管理回数」から、より改善効率化の成果が見える「改善提案件数」へ変更

◆環境活動計画の取組結果とその評価

【17年度活動計画の取組結果】 ●：新規取組み項目		評価
①CO2排出量削減 【電気】 【LPガス】 【ガソリン】	<ul style="list-style-type: none"> ●作業場の統合による電気使用量の削減 ●会議室換気扇にタイマー設置 夏季効果的に室温を下げる・切り忘れ防止 ・玄関ロビーのブラインド活用による室温管理 ・「施錠・節電チェックリスト」による消し忘れ防止の徹底 ・温水の使用期間を11月～3月に限定にした ・フロン類使用機器の簡易定期点検の実施 ・業務スケジュールの情報共有により納品の効率化を行った 	○
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物から再利用できる材料（ベニヤ、角材、キャスターなど）を分別する。 ・段ボール、ペットボトルをリサイクルセンターへ持ち込む 	△
③水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの節水啓発表示継続 ・雨水タンクの雨水を有効活用できる移設先を決定 18年度移設へ向けて準備 	△
④化学物質の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全衛生推進者」の資格取得 1名 ・危険物貯蔵の見える化ボードの設置 ・廃塗料を削減する為、在庫塗料使用の推進継続 	○
⑤グリーン購入の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品の再利用推進により、総購入点数が基準年より6割に削減 	×
⑥生産活動における効率化	<ul style="list-style-type: none"> ●作業効率化についての改善提案 3件 1.CADデータ作業の効率化（定型業務のデータフォーマット化） 2.見積もりデータベース作成による見積り標準化と作業の効率化提案 3.業務振り返りによる今後の改善項目の提案 	○
⑦環境にやさしい製品の提案	<ul style="list-style-type: none"> ●環境にやさしい製品へ関連する業務への参加 2件 1.開発シートの軽量化、質量低減のための意匠開発 2.NC材料の変更（ケミウッド→発泡スチロール）による軽量化 	○
⑧環境意識の高い社員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・会社周辺の環境美化活動の実施（1回） ・日進市公園愛護会活動の実施（12回） ・トナー回収 使用済み切手の寄付（1回） ・エコキャップ回収（2箱） 	○

◆環境活動の次年度の取組内容

【18年度 環境活動計画】	■：重点項目
①CO2排出量削減 【電気使用量】	■防災対策のためのコンセント調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・節電タイマーの利用による、換気扇の切り忘れ防止 ・最終退出者による「施錠・電源オフ チェックリスト」の運用管理 ・昼休みの各室消灯確認 ・共有部分未使用時の照明消灯の確認と消灯徹底 ・照明エリア図の掲示の継続 ・個人PCの退社時、電源OFFの確実実施と啓発表示の継続 ・エアコン設定温度の啓発表示 継続 ・エアコン操作パネル付近に実際温度確認用の温度計設置 継続 ・省エネ家電の導入（家電の買い替え時） ・室内機フィルターの定期的清掃実施（年2回/6月12月）
【LPガス】	<ul style="list-style-type: none"> ・温水の使用期間管理 ・ガス使用頻度の少ない契約の見直し（studioC内） ・フロン類使用機器の簡易定期点検の実施（4回/年）
【ガソリン】	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費計測によるエコドライブ推進活動 ・業務の前段取りを行い引取り、納入回数を低減する ・仕入先に対し当社への納入を依頼
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・発泡スチロールの廃材を納品業者に回収してもらい、リサイクルする ・廃棄する梱包材を削減し、できる限り再利用するようにする ・詰め替え可能な製品の利用を促進する ・使用済み用紙の裏紙、使用済み封筒を再利用する ・廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を確認する ・支給部品の返却を徹底する
③水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水タンクの移設（花壇の水やりや災害時などの有効活用） ・水使用頻度の少ない契約の見直し（studioC内） ・「水を大切に！」のメッセージを全ての水周りに掲示する
④化学物質の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・作業環境測定の実施 ・危険物貯蔵の見える化ボードの活用 ・化学物質の有機溶剤の成分・量・対応する法令の把握 ・有機溶剤使用日常点検表による化学物質の管理 ・相手先から支給の塗料は、全て返却する
⑤「グリーン購入」の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入品目の利用を促進する
⑥生産活動における効率化	■人や経験の様なソフトを中心とした改善活動の推進 目標：2件/年 <ul style="list-style-type: none"> ・見積もりデータベースの費目分野拡大 →見積り標準の定着化と更なる業務効率化の推進 ・飽くなき問題解決・業務振り取りによる更なる業務効率化の推進 ■設備等ハードを軸とした改善提案の推進 目標：2件/年 <ul style="list-style-type: none"> ・CADデータ変換時の面化けリスク低減の改善 ・ハンドソー導入によるPAD加工ロス低減の改善
⑦環境にやさしい製品の提案	■環境にやさしい製品の業務へ積極的に参加する 目標：2件/年 <ul style="list-style-type: none"> ・汎用品使用による展示台のアルミ化 ・環境負荷に配慮した製品軽量化の技術開発への協力
⑧環境意識の高い社員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ、ベルマーク、使用済トナーの回収活動 ・公園愛護会活動 ・環境ボランティア活動への参加促進 ・地域清掃の自主活動を実施

◆環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 遵守確認の結果、関係当局よりの違反等の指摘や利害関係者からの訴訟等は過去5年間一切ありません。

【法の名称】	遵守手順・管理項目	遵守確認と遵守状況
1.廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約書・県知事許可証の写しの入手と保管 ・保管場所の確保と掲示板の掲示（60cm角以上） ・廃棄物の飛散・流出・地下浸透しない ・マニフェストの発行及び管理（5年間保管） ・A票の保管の確認をする ・B2票・D票は90日以内返却確認をする ・E票は180日以内返却確認をする ・不適切な処置は県知事に報告する ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・委託契約書の締結の遵守 ・マニフェストの保管、管理の遵守 ・マニフェストの交付 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 H25年分・・・2014/6/10報告書提出 H26年分・・・2015/4/24報告書提出 H27年分・・・2016/4/25報告書提出 H28年分・・・2017/4/20報告書提出 H29年分・・・2018/5/25報告書提出
2.アイドリングストップの義務 （第77・78条）	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車、自転車を運転する時はアイドリングストップをしなければならない。 	【遵守】 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場への啓発表示
3.自動車NOx・PM法	<ul style="list-style-type: none"> ・貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制 規制適合車へのステッカー貼り付け 	【遵守】
4.家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・引取り業者への適正な引き渡し、リサイクル料金の支払い ・家電リサイクル券の写し受領の確認をする 	【当活動期間において事例無し】
5.自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・引取り業者への適正な引き渡し、リサイクル料金の支払い ・引取り業者より引取証明書の受領 	【当活動期間において事例無し】
6.フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・フロン類（業務用エアコン・冷凍冷蔵機器）の適切な管理 ・簡易点検、または定期点検の実施 ・フロン類の漏えい防止措置 	【遵守】
7.有機溶剤中毒予防規則	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊健康診断、作業環境測定の実施 ・局所排気装置の点検、管理 ・有機溶剤作業主任者の選任 	【遵守】
参考法令		
8.消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物（第1石油類40リットル未満）の安全な管理 ・塗料保管量の把握、施設保管の管理 	【遵守】
9.小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市条例（使用済み小型家電等の再資源化の促進に関する法律） ・事業系の一般廃棄物として契約処理業者へ処分を委託 	【当活動期間において事例無し】

◆代表者による全体評価と見直しの結果

過去活動を通し、2016年度は『経営視点目標を従業員一人一人の活動へ落とし込み』を行い、2017年度も様々な活動目標、活動計画を立案し活動を続け、本活動も早9年目を迎えるに至りました。

当社は一般的な製造業と異なり、毎回顧客ニーズに応じた研究試作・デザイン試作品を提供することを本業としており、その業務特質上同様の作業を継続することが少ないという特徴があります。そのため累積的な成果確認できる取り組み活動がむずかしく近年では業務の“質”と“精度”を向上させロス低減に繋がる活動に取り組み、2017年度は本レポートP-10の『環境活動計画の取組みとその評価』の様な結果となりました。

次年度も基本指針は変更せず、従業員一人一人の努力を一致団結させ、以下2点を重点とした業務プロセス改善活動を通した環境への取組みを進めて行きたいと考えます。

- ①健全な事業運営と経営基盤のもと、人や経験の様なソフトを中心とした事務作業プロセスの改善
- ②健全な事業運営と経営基盤のもと、設備などハードの活用を中心とした業務プロセスの改善

2018年7月6日

辻川 正志